

天保一分銀「表T」書体に関する分類と考察

①「TR」について

備後古泉会
吉備古泉協会 村上 裕亮

はじめに

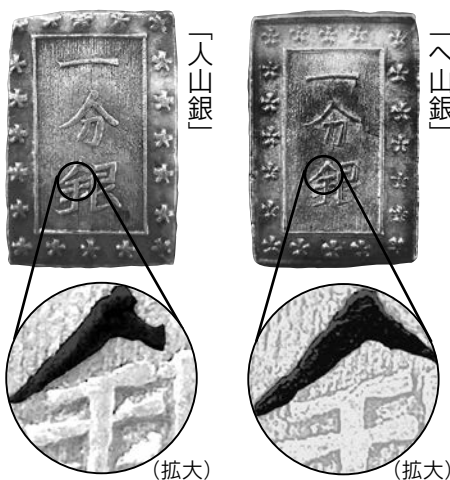
私は天保一分銀を最も好んで収集しております。すると書体についても網羅したくなるのですが、浅井晉吾氏の『新・一分銀分類譜』二〇頁に興味深い記述を見つけました。

この表Tタイプには色々手変わりがあります。まず大字と小字があり、さらに「銀」字に「へ山銀」と「人山銀」とがあります。

この説明と、掲載画像とをにらめっこしたのですが、よくわかりませんでした。そこで某氏に質問をするなどして解読した結果、「へ山銀」の「大字・小字」、「人山銀」の「大字・小字」が存在する、ということだと判断しました。天保一分銀の収集を試みる者のハシクレとして、「とうとうこの領域に手を出すか。自分以外にもそこまで集める人なんているのかな」と不安に感じつつも、手を着けてみた次第です。

「へ山銀」と「人山銀」について

「へ山銀」は「へ」になっているもの、「人山銀」とは、「銀」字の「一、二画が「人」になっているものを指します。判断のポイントは第一画が上へ突き出ているかどうかで、突き出ているは「人山銀」となります。ところが極印の摩擦か、本体が流通するなかで摩擦したのか、「人」がつぶれて「へ」に見えてしまうものがあります。



「人山銀」

「へ山銀」

(拡大)

(拡大)

ですので、細心の注意を払ってこの二書体を分類しました。

「大字」と「小字」について

「大字」と「小字」についての区別は、相対的な大きさを判断をすることができます。大字と小字とを並べて、書体の変化がないか、筆順に違いがないかなどを検討しましたが有意な違いはみられませんでした。ここでは表書体の四種類を掲載します。



「へ山銀」

小字

大字

(拡大)

(拡大)